

ミレニアル世代の力

副代表幹事
米州委員会 委員長
広報戦略検討委員会 委員長代理
小林 いずみ
ANAホールディングス/サントリーホールディングス/三井物産
社外取締役



わが国では、官の政策においても製造業・サービス業を問わず民間事業においても、常に高齢者が中心の施策になる。高齢社会は逃れようのない現実であり、その現実に基づいて社会を維持していく仕組みを構築することは日本にとって最も重要な課題であるが、一方、われわれがビジネスを行っているグローバル市場は必ずしも同じではない。

近年、ミレニアル世代(M世代)といわれる1980年代～2000年代前半に生まれた世代(あるいは今世紀に社会人になる世代)に特に大きな注目が集まっている。米国ではすでに、オバマ政権が誕生した選挙においても、その動向が選挙結果に影響を及ぼしたといわれているが、来年の選挙においてもM世代の取り込みは大きな戦略の柱になっているようである。

またビジネスの世界においても、米国の経営者と話をすると必ずM世代の話が出る。この世代は生まれた時からデジタル化された生活の中にあり、常時インターネットにつながり、これまでの世代とは異なる価値観を持っているといわれている。実際に米国では同性婚が憲法上の権利と認められ、トップスクールを出た若者の多くが社会企業家を

志向するなど、これまでとは考えられない方向に向かっている。私の友人も、M世代の娘の「ママ、同性婚なんて当たり前じゃない」という発言に価値観の大きな違いを実感させられたと言っている。

これまでさまざまな世代論が出てきているが、このM世代の威力は何か違うようである。それが何かはよく分からないが、これまでの近代化が生み出した負の部分に真っ向から目を向けて取り組むような価値観を感じる。それだけではなく、デジタル世代の彼らはリアルタイムで世界とつながっている。M世代の発信と同調は瞬時に世界中を駆け巡り、社会制度、経済発展の度合いとは関係なく同世代に影響を及ぼし合っている。「ようである」「思える」等々あいまいな表現が多くなってしまふのは、私自身もM世代の実態をまだ十分に理解していないからであるが、われわれも政治であれビジネスであれ、高齢者と同時にM世代の動向を相当に意識しなければならないという危機感を持っている。日本でも高齢者ばかりに気を取られていると、日本のM世代の反乱に見舞われるかもしれない。

No.783 November 2015 経済同友会 11

C O N T E N T S

特集

地方創生の現場から

～各地経済同友会との連携
(沖縄・九州・四国 訪問)～

02

Close-up提言

新しい働き方委員会 【提言】
橘・フクシマ・咲江 委員長
「スマート・ワーク」で
労働生産性を向上させ
グローバル競争に打ち勝つ

09

Doyukai Report

日本経済新聞社・日本経済研究センター 主催
景気討論会

11

世界情勢調査会

12

**我が国の機微物資・技術情報を狙う
活動について**

—高まる国際的なリスクを背景に—
野々上 尚 氏 公安調査庁 長官

被災地出張授業

これからの時代に求められる人材像
木川 眞 政治改革委員会 委員長

13

Column

巻頭言 小林 いずみ
「ミレニアル世代の力」

01

リレートーク 日色 保
「A B O 雑感」

15

福島に“ほんとの空”が戻る日まで

16

～福島大学FUREの挑戦～ 小松 知未 氏
「福島県における食と農の再生
—地産地消・消費者意識・全国流通を概観—」

私の思い出写真館 池田 弘

22

「宮司と、経営者と。～地域活性化を願って～」

おくやみ 小林陽太郎 元代表幹事を偲んで

17

新入会員紹介

21

第三次安倍改造内閣への要望書を手交

21

今月の表紙: シリーズ国花
【カトリア/コロンビア】

洋ランの女王と呼ばれるカトリア。コロンビアでは
コーヒーの木に着生している野生のカトリアを見
ることができます。